



足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

【データ出典】

- | | |
|--|--------|
| ① 東京都監察医務院提供データ（平成28年～令和6年） | (全ページ) |
| ② 気象庁「過去の気象データ検索」 | (P6、8) |
| ③ 東京都監察医務院「令和2～6年夏の熱中症死亡者数の状況【東京都23区（確定値）】 | (P7) |

■ ■ ■ 目次 ■ ■ ■

1 本分析について	(P 3)
2 年月別の集計	
(1) 曆年別高齢者孤立死者数	(P 4)
(2) 月別高齢者孤立死者数	(P 5)
3 時期別の集計	
(1) 夏季（7・8月）の高齢者孤立死者数（最高気温別）	(P 6)
(2) 热中症死亡者（屋内）のエアコン設置有無及び使用状況	(P 7)
(3) 冬季（1・2・12月）の高齢者孤立死者数（気温差別）	(P 8)
(4) 死亡直前の状況別高齢者孤立死者数（H28～R6）	(P 9)
4 性別・年代別の集計	
(1) 性別による傾向（割合及び死後経過日数の比較）	(P 10)
(2) 性別による傾向（死後経過日数の比較）	(P 11)
(3) 性別による傾向（死後経過日数と発見者の比較）	(P 12)
(4) 高齢者全体と高齢者孤立死の死亡年齢の比較	(P 13)
5 集計・分析結果	
(1) 「1 死亡時期別の集計」の集計・分析結果	(P 14)
(2) 「2 性別・年代別の集計」の集計・分析結果	(P 15)
(3) 集計・分析結果に基づく今後の対応方針①	(P 16)
(3) 集計・分析結果に基づく今後の対応方針②	(P 17)

1 本分析について

本分析について

東京都23区内で発生したすべての不自然死（死因不明の急性死や事故死など）について、死体の検案及び解剖を行い、その死因を明らかにしている東京都監察医務院より、足立区内のデータの提供を受け、独自に分析を実施しています。

検案対象

1 病死及び自然死の一部

- (1) 医師の診療を受けずに死亡した場合
- (2) 医師の診療を受けたが死因不明のまま死亡した場合
- (3) 医師の診療中の病気と違った他の原因で死亡した場合
- (4) 発病又は死亡時の状況に異状がある場合

2 すべての外因死とその後遺症による死亡

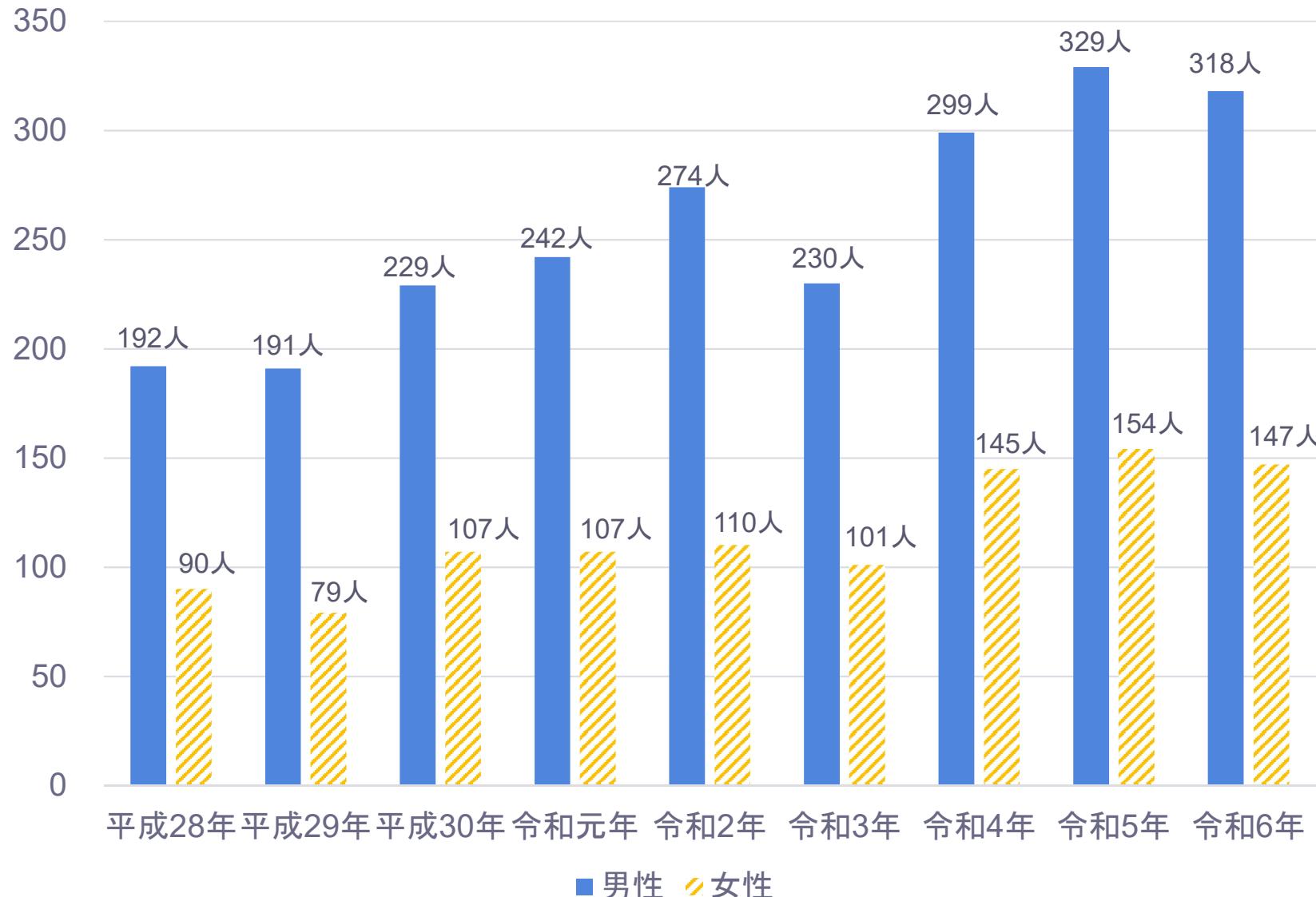
不慮の外因死(交通事故死、転落死、溺死、焼死など)、自殺、他殺

3 不詳の外因死か不明のもの

「不自然死」とは「死因不明の急性死や事故死など」であり、当分析では「足立区内の65歳以上の単身者の自宅での不自然死」を「高齢者孤立死」と定義します。

2 年月別の集計

(1) 曆年別高齢者孤立死者数



1 単身世帯数の増加に
伴い、高齢者孤立死者
数も毎年増加する傾向
が見られる。

2 コロナ禍の時に減少
した高齢者孤立死者数
はその後約1.45倍
の増加に転じている。

年度	一人世帯数
H28	51,583
H29	53,564
H30	55,268
R1	56,858
R2	58,285
R3	59,636
R4	60,733
R5	61,522
R6	62,676

※数字で見る足立より引用

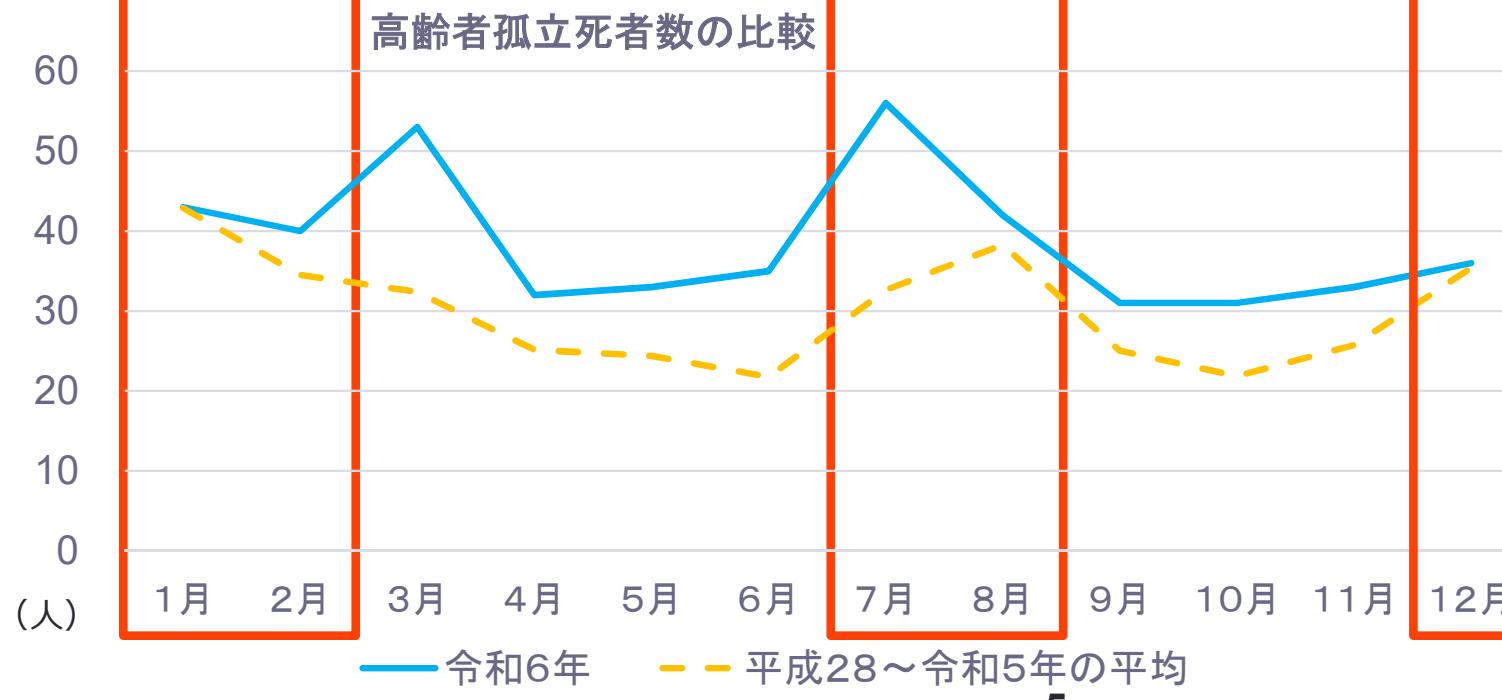
※孤立死者数の集計は曆年

2 年月別の集計

(2) 月別高齢者孤立死者数

	各月												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384
令和3年	37	35	19	35	19	19	27	35	26	20	27	32	331
令和4年	51	51	61	23	30	24	34	43	29	23	32	43	444
令和5年	59	42	39	36	33	40	55	39	41	37	26	36	483
令和6年	43	40	53	32	33	35	56	42	31	31	33	36	465
合計	386	316	312	233	228	209	317	348	231	206	239	319	3,344
1000人当たり	115.4	94.5	93.3	69.7	68.2	62.5	94.8	104.1	69.1	61.6	71.5	95.4	1,000.0
平均	42.9	35.1	34.7	25.9	25.3	23.2	35.2	38.7	25.7	22.9	26.6	35.4	371.6

(人)



1 令和6年の高齢者孤立死者数は、分析開始以降最多の昨年に次いで高い数値となつた。

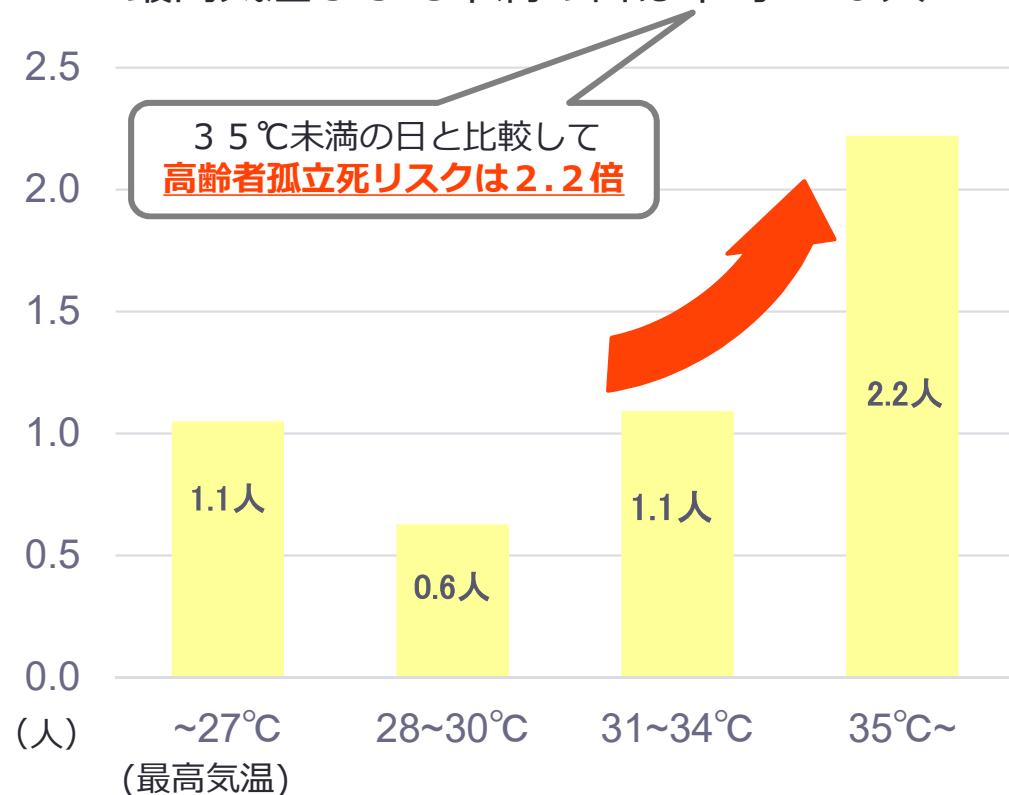
2 夏季（7月、8月）、冬季（1月、2月、12月）に増加する傾向は変わりない。

3 時期別の集計

(1) 夏季(7・8月)の高齢者孤立死者数(最高気温別)

最高気温別の平均高齢者孤立死者数／日 (H28～R6累計)

最高気温 35℃以上の日は平均 2.2 人
最高気温 35℃未満の日は平均 1.0 人

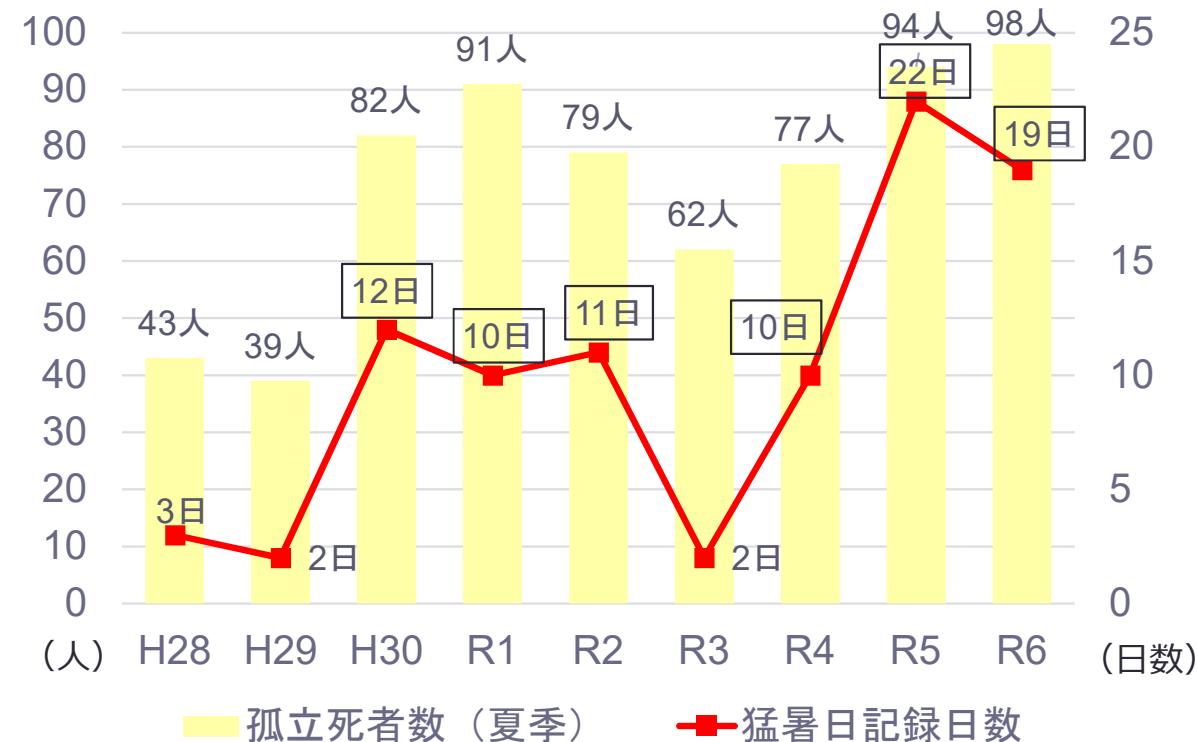


35℃未満の日と比較して
高齢者孤立死リスクは2.2倍

※猛暑日とは最高気温が35℃以上のある日である。

猛暑日の記録日数と 夏季(7・8月)高齢者孤立死者数

猛暑日が10日以上記録された年は、
高齢者孤立死者数が増加している。



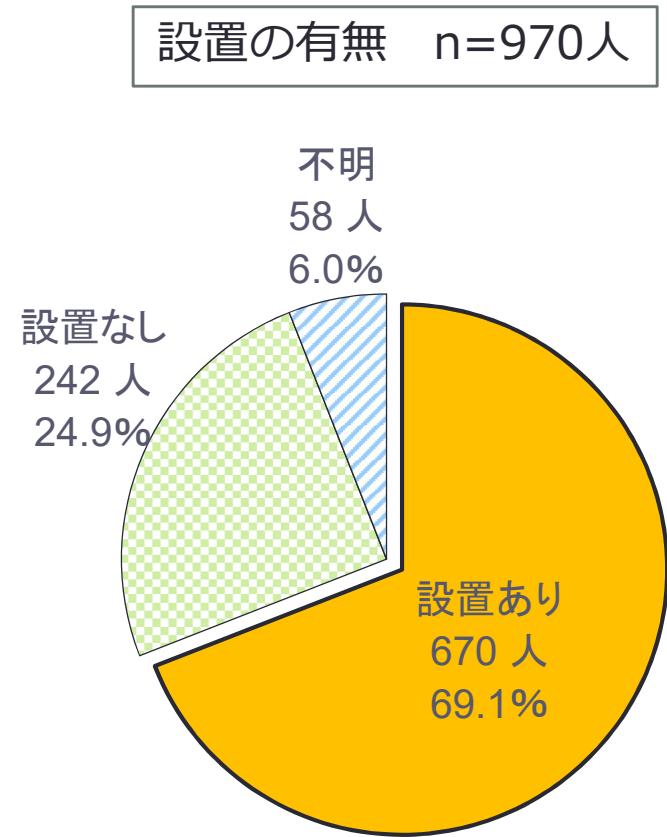
猛暑日になると、高齢者孤立死リスクが2.2倍に高まる。

3 時期別の集計

(2) 熱中症死亡者(屋内)のエアコン設置及び使用状況

特別区内全域 (世帯構成・年齢不問)

(n = 令和2～6年の6～9月累計)



設置ありのうち未使用の割合



エアコンを設置していた熱中症死亡者 670 人のうち、
85.6%が使用していなかった。

3 時期別の集計

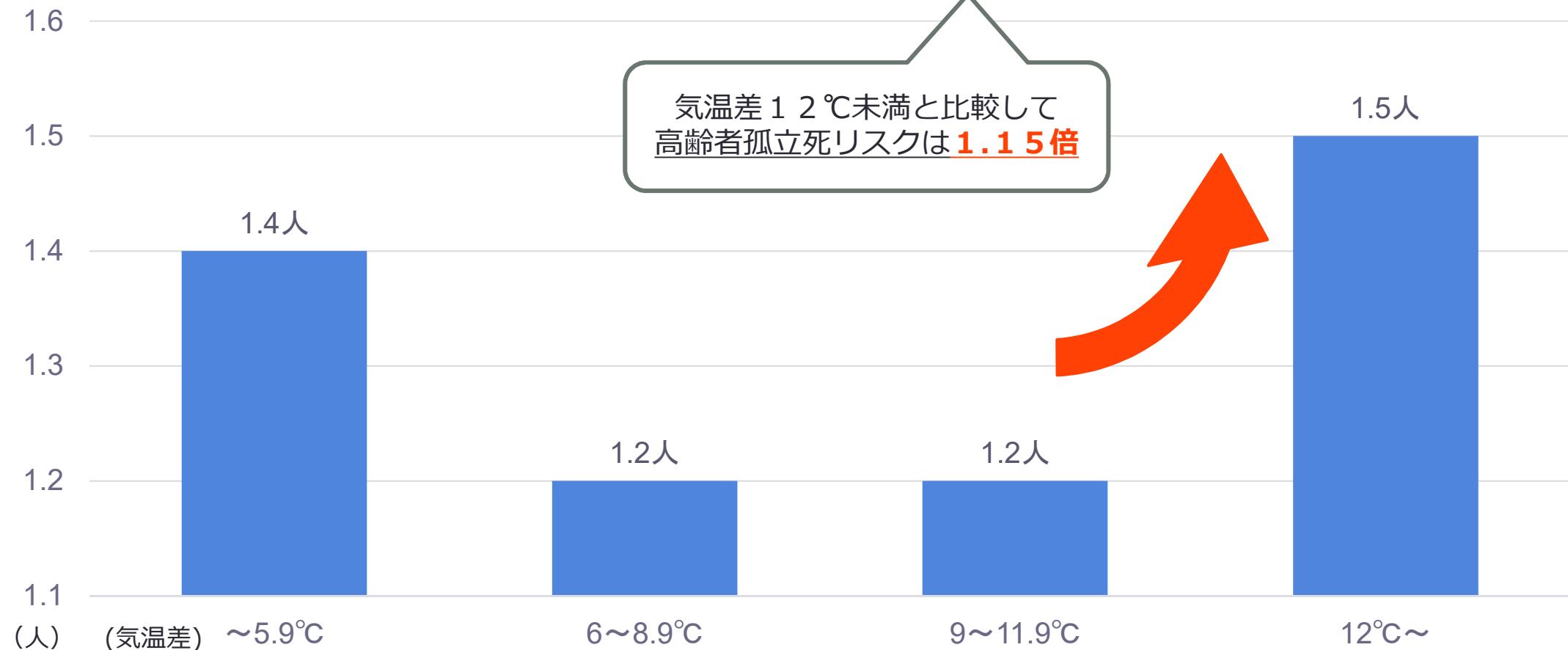
(3) 冬季(1・2・12月)の高齢者孤立死者数(気温差別)

※気温差とは1日の最高気温と最低気温の差である。

気温差別の平均高齢者孤立死者数／日 (H28～R6の累計)

気温差 12°C未満の日は平均 1.3 人

気温差 12°C以上の日は平均 1.5 人



3 時期別の集計

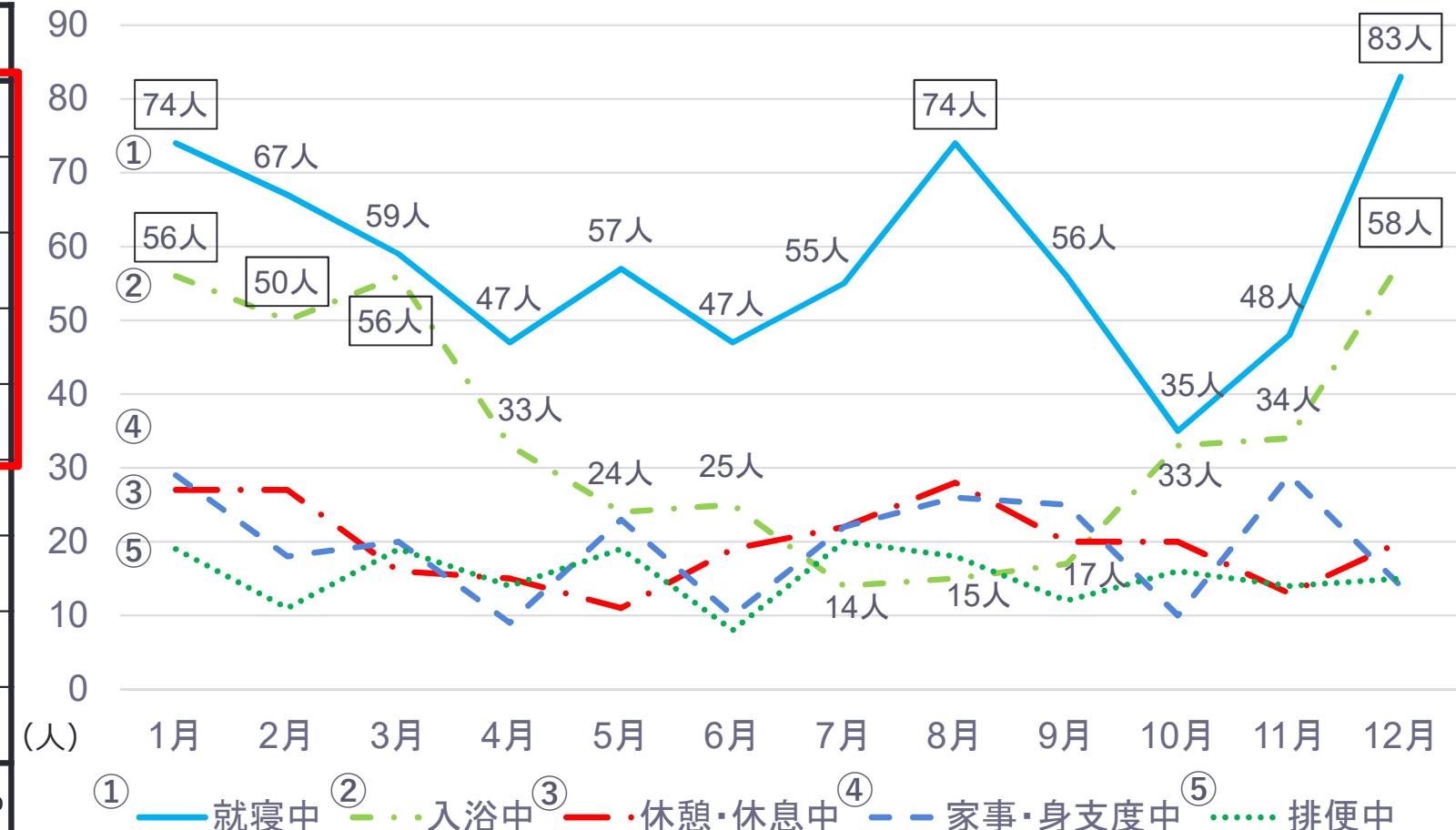
(4) 死亡直前の状況別高齢者孤立死者数(H28～R6の累計)

死亡直前の状況別(全体)

状況別	孤立死者数	割合
就寝中	702	21.0%
入浴中	415	12.4%
休憩・休息中	238	7.1%
家事・身支度中	235	7.0%
排便中	185	5.5%
飲食中	33	1.0%
寝たきり	11	0.3%
その他	451	13.5%
不詳	1,074	32.2%
合計	3,344	100.0%

死亡直前の状況別(月別)

※ 状況別高齢者孤立死者数上位5種を集計(その他、不詳を除く)



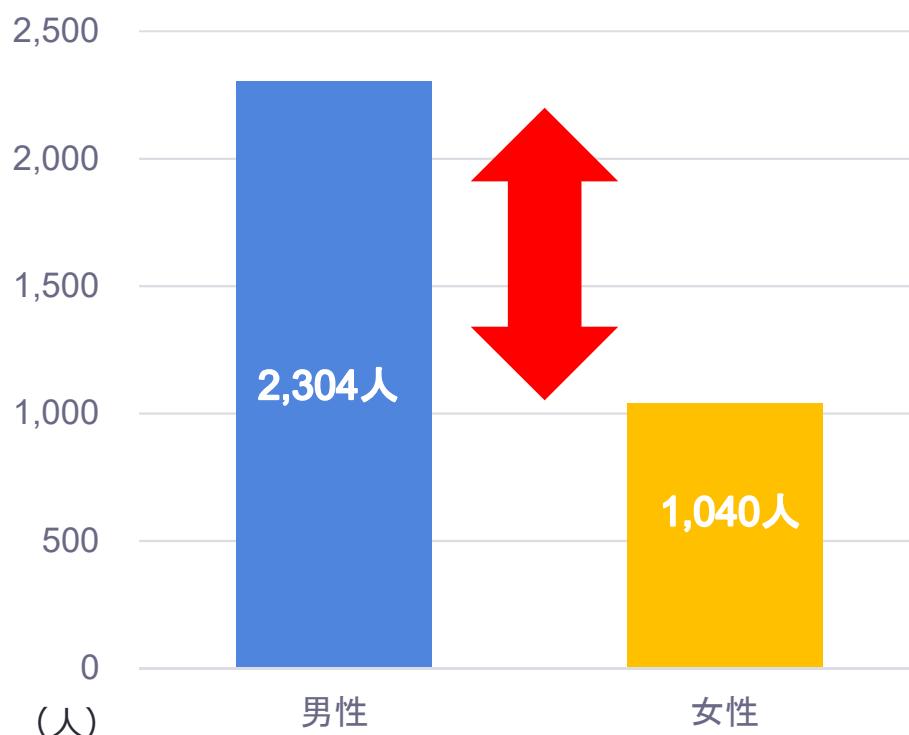
「就寝中」の人数は一年を通して多く、夏季（8月）と冬季（1、12月）は特に増加している。

「入浴中」は冬季を中心に（1～3、12月）に増加している。

4 性別・年代別の集計

(1) 性別による傾向(割合及び死後経過日数の比較)

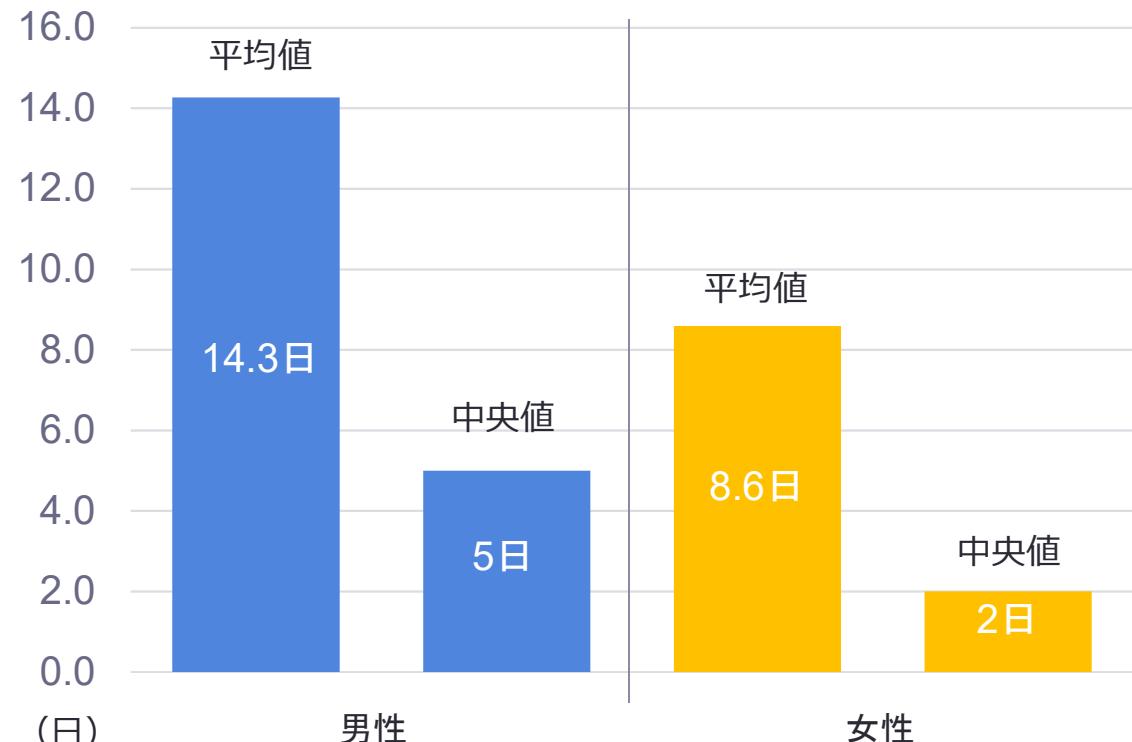
性別ごとの高齢者孤立死の件数
(H28～R6の累計)



高齢者孤立死の件数は女性に比べ男性が、**2.2倍**高い。

性別ごとの死後経過日数 (H28～R6の累計)

【平均値】	男性 14.3日	女性 8.6日	男性は女性の 1.7倍
【中央値】	男性 5.0日	女性 2.0日	男性は女性の 2.5倍
【最大値】	男性 811日	女性 351日	男性は女性の 2.3倍

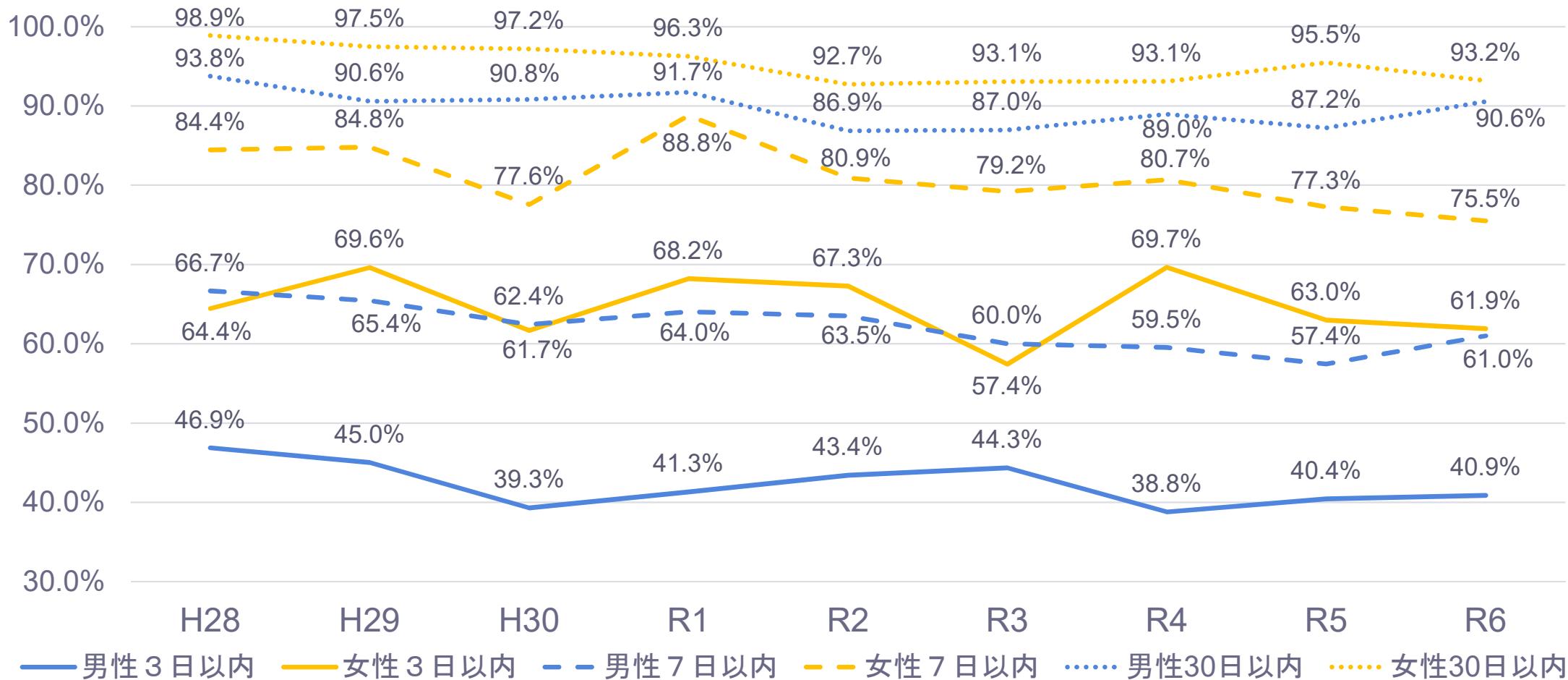


男性の方が発見まで**期間を要している**。
また、**30日以上経過は約83%が男性**であった。

4 性別・年代別の集計

(2) 性別による傾向(死後経過日数の比較)

発見までの死後経過日数の推移 (男女別暦年推移)



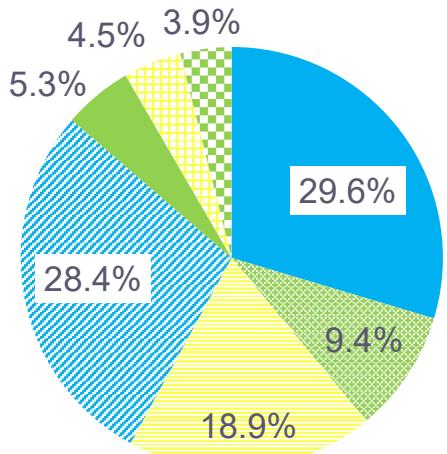
死後3日以内に発見される割合は、概ね**男性が4割、女性が6割**となっている。
死後7日以内に発見される割合は、概ね**男性が6割、女性が8割**となっている。

4 性別・年代別の集計

(3) 性別による傾向(死後経過日数と発見者の比較)

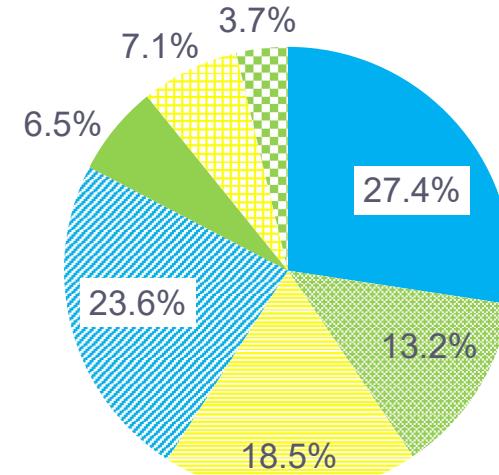
死後3日以内に発見された時の
発見者の割合

【男性】

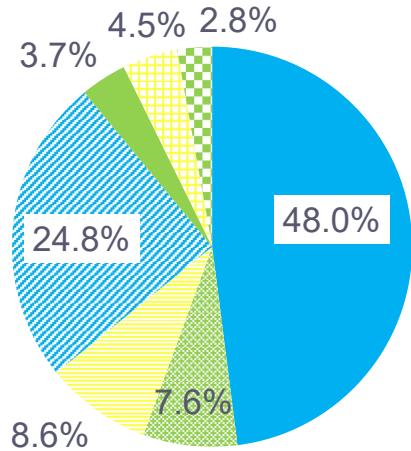


死後7日以内に発見された時の
発見者の割合

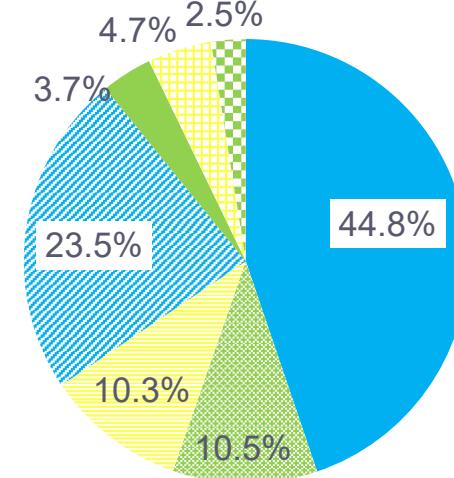
【男性】



【女性】



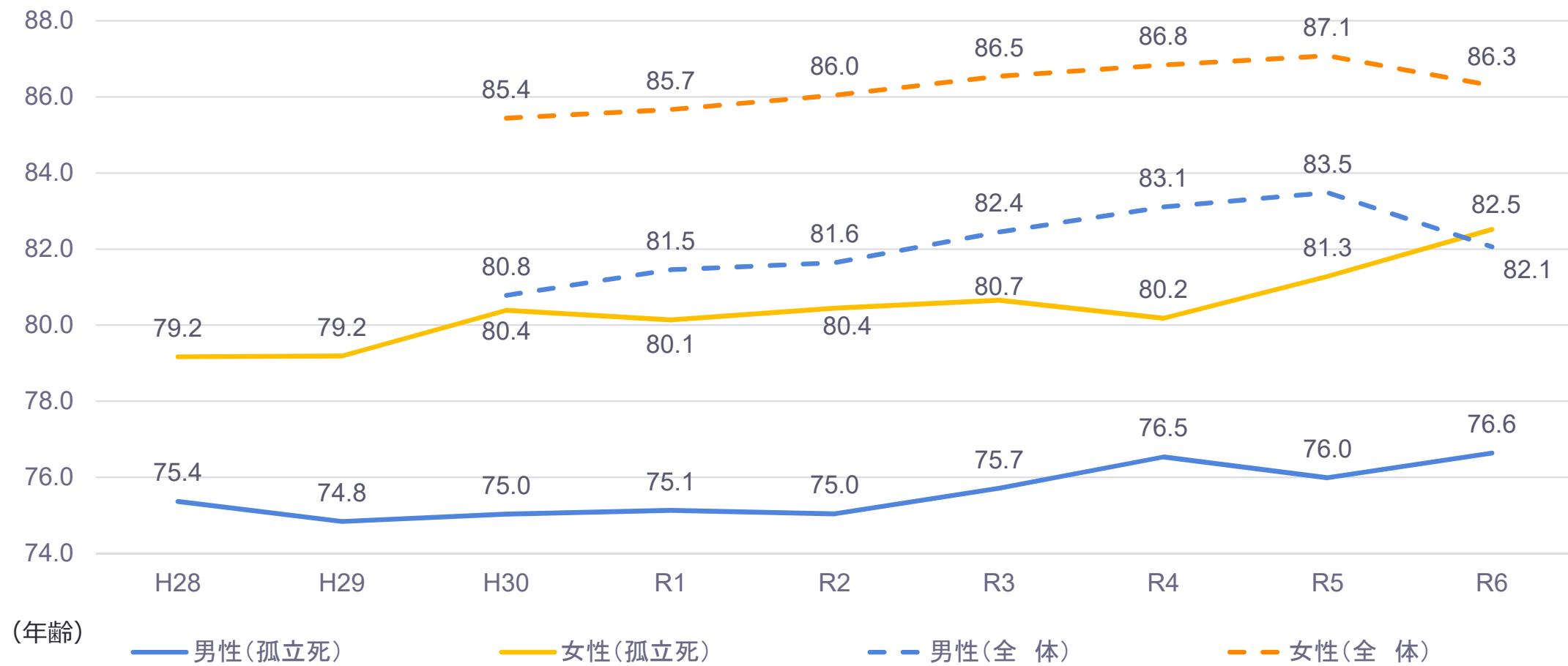
【女性】



男性・女性ともに**家族親族**及びケアマネジャー・ヘルパーなどの**保健福祉関係者**の発見割合が高**い**。また、家族親族の発見割合は、**男性の方が低い**。

4 性別・年齢別の集計

(4) 高齢者全体と高齢者孤立死の平均死亡年齢の比較



高齢者全体と平均死亡年齢を比較すると、孤立死した方は男性で**6.4歳**、女性で**5.5歳**早く亡くなっている。

5 集計・分析結果

(1)「2 年月別の集計」「3 時期別の集計」の集計・分析結果

	集計結果	分析
1 時期別	<p>ア 令和6年の高齢者孤立死者数 P 4、5</p> <p>分析開始以降最多だった昨年より減少した。 ただし、分析開始以降2番目に多い高齢者孤立死者数である。</p>	<p>ア 令和6年の記録的な暑さ</p> <p>(ア) 全国的に気温が高い状態が続いており、夏・秋の2季連続で季節平均気温が1位の高温となっており、7～8・11月は例年に比べて孤立死者数も増加した。</p> <p>(イ) さらに東京の猛暑日は20日、真夏日は83日で、いずれも観測史上最多であった令和5年の猛暑日22日と真夏日90日より減少したが、7～8月の熱中症死亡者数自体は増加した。</p>
	<p>イ 夏季及び冬季の高齢者孤立死者数 P 6、8</p> <p>夏季は最高気温が35℃（猛暑日）を上回ると、2.2倍になった。 冬季は最高気温と最低気温の気温差が12℃を上回ると、1.15倍になった。</p>	<p>イ 夏季・冬季の孤立死の傾向について</p> <p>孤立死者数には、夏季は最高気温、冬季は1日の気温差と関連性があることを確認した。この傾向は、令和元年度に分析を始めたときから同様である。</p>
	<p>ウ 状況別の高齢者孤立死について P 7、9</p> <p>他の月と比較すると、就寝中は1、8、12月に、入浴中は1～3月と12月に高齢者孤立死が増加している。 令和6年の熱中症死亡者のうち、85.6%がエアコンを設置しているのに使用されていなかった。 また、エアコンを設置しているが未使用であった割合は昨年度に比べて微減した。</p>	<p>ウ 状況別の孤立死の増加について</p> <p>(ア) 令和6年度の屋内の熱中症で死亡した方のエアコンの使用割合は昨年に比べて約3ポイント増加したが、いまだに10%台と低レベルである。今後も創意工夫を重ね、高齢者にエアコンの使用を促していく必要がある。</p> <p>(イ) 冬季に増加する入浴中の孤立死については、ヒートショック対策が必要である。</p>

5 集計・分析結果

(2) 「4 性別・年代別の集計」の集計・分析結果

	集計結果	分析
2 性別・ 年代別	<p>ア 高齢者孤立死者数と経過日数の比較 P 10、11</p> <p>男性の方が高齢者孤立死者数が多い傾向は変わらない。</p> <p>また、死後3日以内に発見される方は男性が約4割、女性が約6割となっている。</p>	<p>ア 男性の孤立死・経過日数について</p> <p>(ア) 孤立死者数及び発見までに要した平均経過日数は、女性に比べ男性が大幅に上回っていた。過去の集計結果と比較しても同じ傾向にある。</p> <p>(イ) コロナ禍以降、死後7日以内に発見される割合が低迷している理由としては、コロナ禍で疎遠となつた人間関係が完全には戻っていないことが考えられる。</p>
	<p>イ 発見者の比較 P 12</p> <p>男性、女性ともに家族親族・保健福祉関係者の発見者割合が高い。</p>	<p>イ 発見者の割合の推移について</p> <p>(ア) 男性、女性ともに家族親族・保健福祉関係者の発見者割合が高いが、死後3日以内に比べて死後7日以内の家族親族・保健福祉関係者の発見者割合は低下し、一方隣人・管理人の発見者割合が増加している。</p> <p>(イ) 性別を見ると、死後3日以内に比べた死後7日以内の発見者割合は、男性が配達人、女性が知人について増加している。</p> <p>(ウ) 配達人の発見者割合が増加しているのは、絆のあんしん協力機関へ登録した配達業者による見守り活動の一定の成果と考える。</p>
	<p>ウ 高齢者全体との比較 P 13</p> <p>高齢者全体と比較すると、孤立死した方は、男性で6.5歳、女性で5.9歳早く亡くなっていた。</p>	<p>ウ 孤立死の早逝要因について</p> <p>単身高齢者が早く亡くなる要因として、緊急通報対応ができないことや生活習慣の乱れ等が考えられる。</p>

5 集計・分析結果

(3) 集計・分析結果に基づく今後の対応方針①

	対応方針	具体的な対策
内容	<p>P 14の分析結果からこれまで通り以下の対応の継続が重要であると再認識した。</p> <p>ア 热中症対策 (1) 「1 死亡時期別の集計」の集計・分析結果のア、イ、ウを参照。</p> <p>イ ヒートショック対策 (1) 「1 死亡時期別の集計」の集計・分析結果イ、ウを参照。</p>	<p>ア 热中症対策 (ア) エアコン使用率が上昇しているものの高齢者孤立死者数は微増しているため、室温を下げる効果的なエアコンの使用について更なる啓発を進める。 (イ) 令和7年度はエアコン使用を訴える強いメッセージを掲載したうちわやチラシを作成し、配布。 (ウ) エアコンを使用しない理由として「冷たい風が嫌い」「暑いと感じていない」「電気代がもったいない」等がある。エアコンの使用につながっていない方には温湿度計を配付し、適切な温湿度管理等も引き続き呼びかける。</p> <p>イ ヒートショック対策 (ア) 令和7年度からヒートショック対策の注意喚起メッセージ入りのタオルを作成した。 (イ) 実態調査やわがまちの孤立ゼロプロジェクトを実施している町会・自治会への提供を継続するとともにヒートショック対策メッセージの工夫、配布方法等の改善も検討する。</p>

5 集計・分析結果

(3) 集計・分析結果に基づく今後の対応方針②

	対応方針	具体的な対策
内容	P 15の分析結果からこれまで通り以下の対応の継続が重要であると再認識した。 ウ 男性の孤立対策 (2) 「2 性別・年代別の集計」の集計・分析結果ア、イ、ウを参照。	ウ 男性の孤立対策 (ア) 就労時期から地域との関わりを持つよう声掛けをすることにより、孤立予防の効果が期待できるとの考え方から、これまででは男性の孤立について絆のあんしんネットワーク関係者に絆のあんしんネットワーク連絡会等で共有しており、継続する。 (イ) 今後は運送業者・警備会社等働く男性が多い事業者等へ直接働きかける。具体的には、絆づくり担当課職員が事業者の朝礼等の時間を利用し分析結果を示し啓発を行う。